



IMPERIAL JAPANESE ARMY TYPE 3 FIGHTER
244th AIR-REGIMENT
KAWASAKI KI-61-I TONY

陸軍三式戦闘機

飛燕一型 [丙]

飛行第**244**戦隊

1:72スケールプラスチックモデル組立キット

KIT No.
FP26

FOR HITEC
Finemolds

■唯一の水冷戦闘機

第二次大戦における日本戦闘機の中で、唯一の水冷エンジン搭載機が三式戦闘機・飛燕である。

原型である試作機キ61は昭和16年12月12日に初飛行し18年2月には部隊配備を開始したが、ニューギニアやフィリピンなどの外地部隊において本機は終始トラブルに泣かされたと言われている。

しかし日本本土内では部品供給も充分となり、製造元の川崎航空機から技術者を招くことも容易であることや、整備員の水冷エンジンへの習熟もあり各部隊の稼働率は徐々に高くなった。

中でも「帝都」東京防衛を主任務とした飛行第244(にひやくよんじゅうよん)戦隊は本機をもって「空の要塞」B29長距離爆撃機に対し果敢な迎撃を繰り返して、大きな戦果を上げていったのである。

■飛行第244戦隊＝創設から三式戦配備まで＝

昭和16年8月、東京・調布飛行場で編成された飛行第144戦隊が244戦隊の前身である。九七式戦闘機2個中隊を保有し、首都圏各飛行隊と関連施設を統括する第17飛行団(19年3月に第10飛行師団として拡大改編。)の指揮下に入った。

近畿および北九州の防空専任部隊新編に併せ、17年4月15日付で戦隊名を飛行第244戦隊と改称。戦隊は当初から禁閉守護(きんけつしゅご＝宮城警護)を最重要任務とし、隊員達は自らを「近衛飛行隊」と呼んで高い士気を有していた。

部隊名改称3日後の4月18日、本土初空襲となるB-25爆撃機の帝都侵入*に対し244戦隊は哨戒および迎撃を実施したが効果はなく、後に戦力向上のため二式単戦(鍾馗)、さらに二式複戦(屠龍)を他隊から借り受けそれぞれ1個中隊を追加。10月には1個中隊を追加し3個中隊編制をとった。

244戦隊が最新鋭三式戦への改編が始まるのは18年6月。既に南東に進出した68戦隊・78戦隊に続き3番目の三式戦部隊となった。

244戦隊でも当初は「ハ-40」エンジンの信頼性に乏しかった。部品の充実や川崎航空機の技術者を常駐させるなど支援体制が整われたが、通常の空冷エンジンが5～600時間でおこなうオーバーホールを80～100時間程度でおこなう必要があった。また新型機故の未知のトラブルも重ねて起こるが、その都度改修や運用改善の努力を払い機体欠陥に起因する事故を減少させていった。

*この時、水戸で飛行試験中であった試作段階のキ61も迎撃に参加、1機に攻撃を加えた。これが三式戦闘機の初陣となる。

■三式戦の習熟

それまで戦隊を3個中隊に分け、日常の点検整備や補給という「戦闘整備」を担う整備班を各中隊に抱えていた編成は19年1月に改められた。

改変後は3個飛行隊と、それぞれの整備を担う3個小隊から成る整備隊とを編成。整備隊はそれぞれまで隷属した飛行場大隊の整備中隊主力を編入することで陣容を強化。従来の戦闘整備だけでなく整備作業全般を担当することとなる。

10月1日には第4飛行隊が新設され、戦隊は4個飛行隊の編制となり円熟期を迎える。

■B29来襲

19年11月1日、B29の偵察型が初めて帝都上空に進入、続く5日にも少数のB29が偵察行動をおこなう。244戦隊を含む第10飛行師団指揮下の各部隊は両日共に全力で迎撃に上がったが、1万メートル超の高々度を飛ぶB29に追いつくことはできなかった。11月24日に初の本格的空襲として110機のB29が中島飛行機武蔵製作所を爆撃。244戦隊では1機を撃墜し戦隊初戦果を記録するが初の未帰還/戦死者を1名出すこととなった。

■小林戦隊長着任

19年11月末、若年24歳の小林照彦大尉が陸軍史上最年少の新戦隊長として戦隊に赴任した。

若さに加えて明るく率直な人柄は戦隊を活気ある物にして士気もさらに向上するが、同時期に戦隊幹部を含む多くのベテラン・中堅操縦者達が他部隊に移動し戦力弱体化は否めなかった。

この操縦者減員に伴い新戦隊長は飛行隊を3個に縮小するが、自らも空中で率先指揮を執るため戦隊長編隊を新たに編成。専用機材を確保する。

11月初頭から始まったB29による帝都空襲に際し高空能力不足により効果を得られぬ状況下、師団長から対空特攻隊の編成が下命され、244戦隊でも「はがくれ隊」と命名された4名を新戦隊長着任前より選出。防弾装備や武装を外し軽量化した三式戦を用意(後に震天制空隊と命名)した。

12月3日の空襲では同隊3機による体当たり(しかも全員生還)を含み6機撃墜の戦果を得る。軽量化は震天隊のみでなく飛行隊全機でおこなわれ、B29が悠々と飛行する1万メートルでは性能が大幅に低下する本機でも一矢を報えるよう奮闘した。

味方の素敵能力に限界があり、出動命令が出てからでは全てを追撃できないことや、今後は名古屋へも攻撃が予想されたことから、戦隊主力は推進迎撃のため19日に浜松へと移動。以後翌20年2月下旬まで戦隊は浜松と調布の2基地を併用し連日のように迎撃を実施する。2月19日までに撃墜破砕計100機という戦果を記録するが、この中には小林戦隊長をはじめとする合計14回の体当たり攻撃(うち戦死6名)が含まれている。

戦隊全機が体当たりをも辞さず、果敢な闘志による他に類を見ない戦果は新聞紙上に毎日のように掲載され、「小林部隊」の名を「新鋭戦闘機・飛燕」と共に広く国民に知らしめたのである。

■部隊編成

前述の通り19年1月より中隊編成から飛行隊編成へと変更されたことで、各飛行隊は「そよかぜ」など従来から使われていた無線呼出符号を正式隊名として用いた。各整備小隊は形式上飛行隊とは別組織となっていたが実質は同体であり、「そよかぜ」「とっぼう」「みかづき」と言えばそれぞれ整備小隊も含まれて呼ばれていた。戦隊長編隊は当初無線呼出符号を「たかね(高嶺)」と定めたが通常は「本部小隊」または「本部」と呼ばれていた。

対空特攻隊「震天制空隊」は戦隊長隷下にあったが作戦行動上は飛行師団長の直接指揮下にあり、

出撃命令は師団長から発せられた。20年2月に244戦隊が第6航空軍指揮下に入り防空任務を解かれた際、震天隊は第10飛行師団指揮下に残るが既に形式のみとなり、同年3月には廃止された。

■三式戦の稼働率

戦隊が三式戦の不具合に悩みながらも高い稼働率を維持したのは、整備隊に自動車技術者等の熟練技術者を多く擁し、また整備隊長三谷庸雄大尉が部下の信望も厚く彼らの能力を存分に発揮させられたこと、さらに三谷大尉と小林戦隊長とは本来同期生でもあり、戦隊全体の意志疎通が円滑だったであろうことが推測される。

エンジンのオーバーホール間隔が100時間程度では稼働率低下は避けられない。そこで整備隊では度々会議を開き詳細な点検リストを作成。また操縦者の聴き取りを含め飛行後の点検徹底など些細な不具合でも率先して処置をおこなう点検体制を展開。オーバーホール間隔を倍の200時間まで延ばし、また必要以上の整備で却って不調を来たさぬよう、不具合がない箇所は「なるべくいじらない」方針も併せ稼働率を高めた。

加えて、高い稼働率には定数以上の「員数外機」が貢献していた。これは19年10月に柏へ移動した飛行第18戦隊から譲り受けた飛行不可能機で、本来なら部品取りにしか使えない機体を飛行可能な状態にまで修理してしまったのである。

書類上は存在しないこれらの予備機は、正規の機体が故障や事故で使用不可となった際に代替機となり、結果書類上の稼働率は下がらないという「マジック」を可能としたのである。

いずれにしてもこれらは戦隊が他所に移動することなく一箇所の基地に留まることにより、整備員の熟練度を高めていたことが根幹にあるといえよう。日本陸海軍の航空隊における稼働率が平均して50パーセントを下回る中、244戦隊は70~80パーセントを維持したのである。

■敵来襲の激化

20年2月16日は敵艦載機が関東各地へ大挙し、攻撃は一日中続いた。244戦隊は全力30機が早朝から夕刻まで6次に渡り出撃を繰り返すが初の対戦機戦闘に苦戦。撃墜・撃破13機に対し未帰還8機・戦死4名と部隊史上最悪の損失となる。憂慮した防衛総司令部は戦隊を第6航空軍指揮下に編入し、防空任務を一時的に解除した。

3月10日からは機動部隊攻撃を任務とする第30戦闘飛行集団指揮下となり、19日の同集団総力の機動部隊攻撃に参加。艦船特攻をおこなう第18・19振武隊を直掩すべく調布を出発するが、会敵できぬまま夕方に浜松へ帰投した。

4月に入ると戦隊は第10飛行師団の指揮下に復帰し再び防空任務に就く。この月に戦隊は6度の邀撃を実施するが、既に陥落した硫黄島から発進したP51戦闘機がB29を伴伴するようになったため、邀撃はさらに困難を極めていった。

■機種改変とその後の三式戦

4月末より戦隊は五式戦への機種改変を始め、5月17日には沖縄防衛「天号航空作戦」に向け知覧に移動。6月まで特攻機直掩に就いた後7月には八日市へ集結。戦闘禁止令を破る攻撃で大戦果を上げるが、以後戦力回復中に敗戦を迎えた。

一方調布には7隊の振武隊と整備留守隊が残留。244戦隊の三式戦はこれら振武隊が転用した。

小林戦隊長が駆った一型丁4424号機は第159振武隊高島俊三少尉が操り、調布から行動を共にした第160振武隊他と共に、母隊244戦隊による直掩のもと6月6日沖縄の敵艦船群に突入した。

8月15日夕刻の調布出発を下令された残る4隊の振部隊は出発直前で敗戦を迎え、三式戦は22日に武装解除を命ぜられる。米軍部隊の本格的進駐前にこれらは基地西側へ無造作に片付けられ、年末には西武鉄道は政線沿いの一角で衰れた姿のまま解体を待った。帝都防空に奮戦した燕たちは、翌21年夏迄に全て姿を消していたという。

参考:『陸軍飛行第244戦隊史』櫻井隆著・そうぶん社刊 邦29対陸軍航空隊今日の話誌刊 『液冷戦闘機「飛燕」』渡辺洋二著・朝日ソノラマ刊
インターネットホームページ『陸軍飛行第244戦隊 調布の空の勇士たち』櫻井隆著 <http://www.5b.biglobe.ne.jp/~s244f/>

作る前にお読みください

- 組み立てを始める前に本説明書の全ての工程に目を通し、加工部分や前後の工程との兼ね合いなどを確認した後に組み立てをおこなってください。
- このキットはエンジンカバーを開けてエンジンが見える状態でも作ることができます。どちらの状態で作るかを決めてから作業に入ってください。
- 組み立てには模型用ニッパー、カッター、模型用ヤスリをご用意ください。またプラスチックモデル専用の塗料・接着剤も別にお買い求めください。
- 小さなパーツの取り付けにはピンセットを使い慎重に作業してください。
- 各部の塗装はGSIクレオスMr.ホビーカラーの番号を 内の数字で、続けて色名を表示しています。水性ホビーカラーやタミヤカラーをご使用の場合はカラーナンバー対応表を参考にしてください。Boxed numbers refer to GSI Creos's "Mr.Color" paint color numbers.

注意

1. 本製品は玩具ではありません。対象年齢15歳以上の組み立てモデルです。作る前にこの組立説明書をよくお読みください。
2. 部品を取り出した後のビニール袋は、子供が誤から被ったり飲み込むと窒息の恐れがあります。開封後は破り捨ててください。
3. 部品はきれいに切り取り、切り取った後の不要部分や切り取りクズは「プラスチックごみ」として、お住まいの地域のルールに従いゴミとして処分してください。
4. 尖っている部品があります。使用目的以外には絶対に使わないでください。小さいお子様の手の届く所に放置しないでください。
5. 特に小さいお子様のいる家庭では部品や部品切り取り後の不要部、ビニール袋等を誤って飲み込まない様に注意してください。小さなお子さまが側にいる。もしくは出入りする環境での作業や放置はおやめください。
6. 部品組み立ての際、ニッパー・ナイフ・ヤスリ等を不用意に取り扱うと先で怪我をする恐れがありますので注意してください。
7. 接着剤、塗料を使用する場合は、下記に注意してください。
 - 中毒の恐れがあるので閉めきった室内では使用しない。●引火の恐れがあるので火の近くで使用しない。●接着剤・塗料は目や口に入れない。誤って入れたときはすぐに大量の水で洗い流し医師に相談すること。

CAUTION

MAKE SURE TO READ THE INSTRUCTIONS BEFORE ASSEMBLING.

THIS IS NOT A TOY! This kit is suitable for age 10 to adult. An adult supervisor should also read the instructions when assembled by children aged 14 or younger.

1. This is an unassembled kit. Read the instructions before assembling.
2. Tear up and throw away the plastic bags containing kit parts as children may suffocate by swallowing them or wearing them over their head.
3. After cutting the parts off, please dispose of the waste properly.
4. Don't play with the parts for any other purpose, as some parts have sharp point. More caution and care are needed for families with infants.
5. Keep all parts out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouth, or pull plastic bags over their head (risk of suffocation).
6. Assembly involves the use of, tools including knives. Extra care should be taken to avoid personal injury.
7. Take the following precautions when using adhesives and/or paints: Don't use in closed room, to avoid poisoning/intoxication. Don't use near fire (risk of flammability). Avoid contact with your eyes or mouth. In case of accidental contact, rinse with large amounts of water and consult a doctor.
8. Read and follow the instructions supplied for the tool, the glue & the paint if used.

**ディテールアップ
パーツ(別売り)**

DETAIL-UP PARTS

NOT INCLUDED,
SOLD SEPARATELY

飛燕・五式戦闘機用アクセサリセット
(エッチング) 製品番号AA-14 税込1,365円

Extra Detail Parts for IJA Ki-61/Ki-100
(Photo Etched) Item No. AA-14

脚カバー、計器盤、シートベルトなど、細部の精密感を高めるエッチングパーツ

日本陸軍機用ピトー管セット
(真鍮製4本入)

製品番号AA-20 税込1,365円

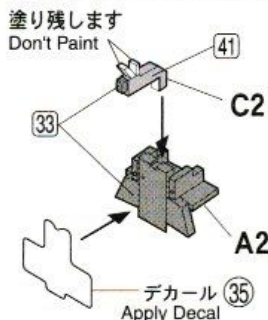
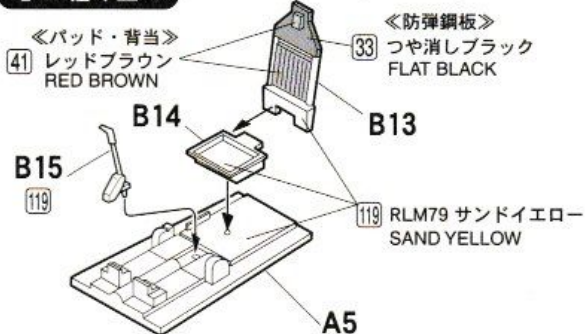
Pitot Tube for IJA Fighter (Brass)
Item No. AA-20

シャープな真鍮製挽き物加工品。

1 **コックピットの
組み立て**

〈コックピットの組み立て〉
Cockpit Assembly

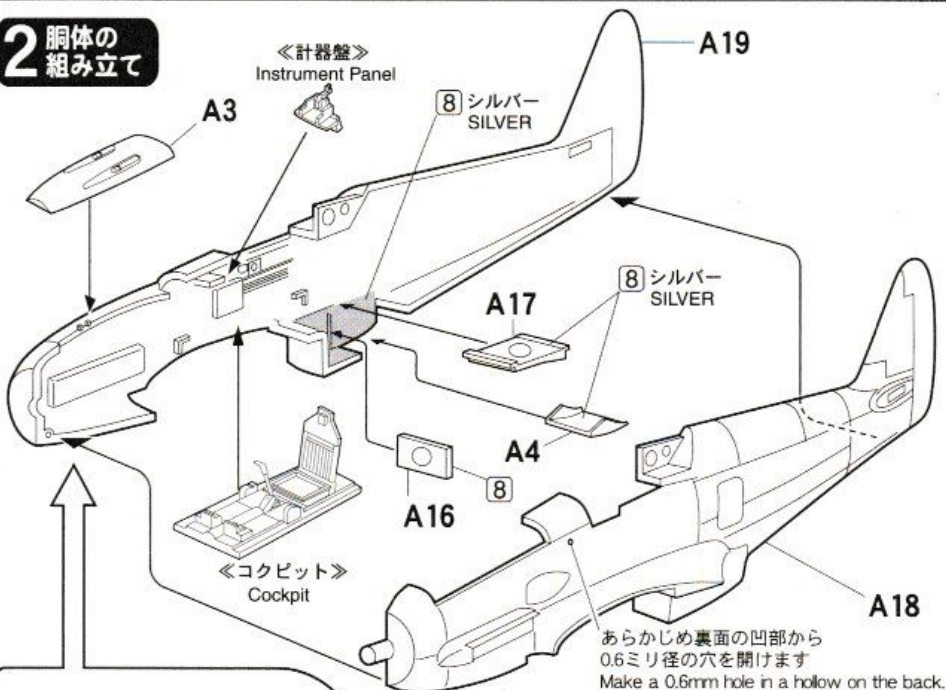
〈計器盤の組み立て〉
Instrument Panel Assembly



〈胴体内壁の塗装〉 Painting for Inside of Fuselage

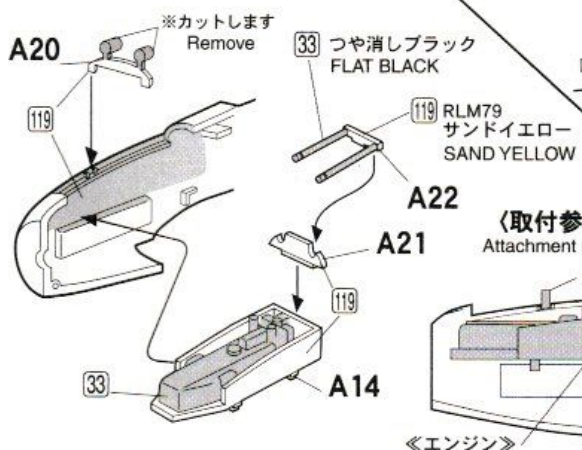


2 **胴体の
組み立て**

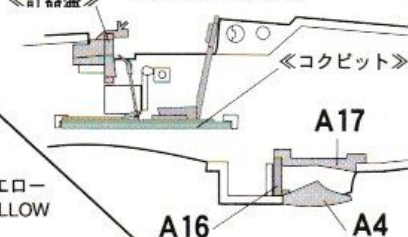


エンジンを露出させる場合。

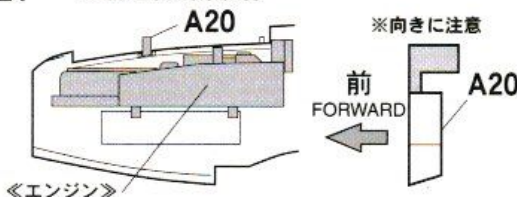
The direction reproducing the engine is shown,
not installation part A3.
※この場合A3を取り付けることはできません。



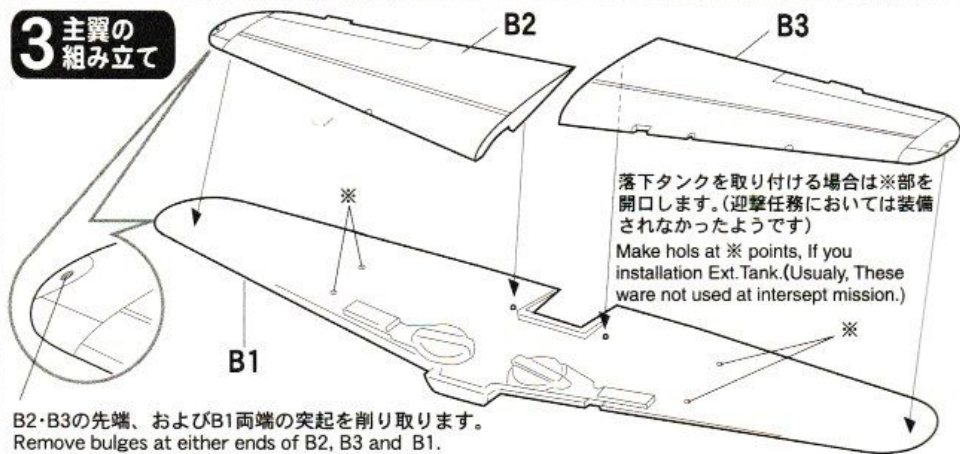
〈取付参考図〉
Attachment reference



〈取付参考図〉
Attachment reference



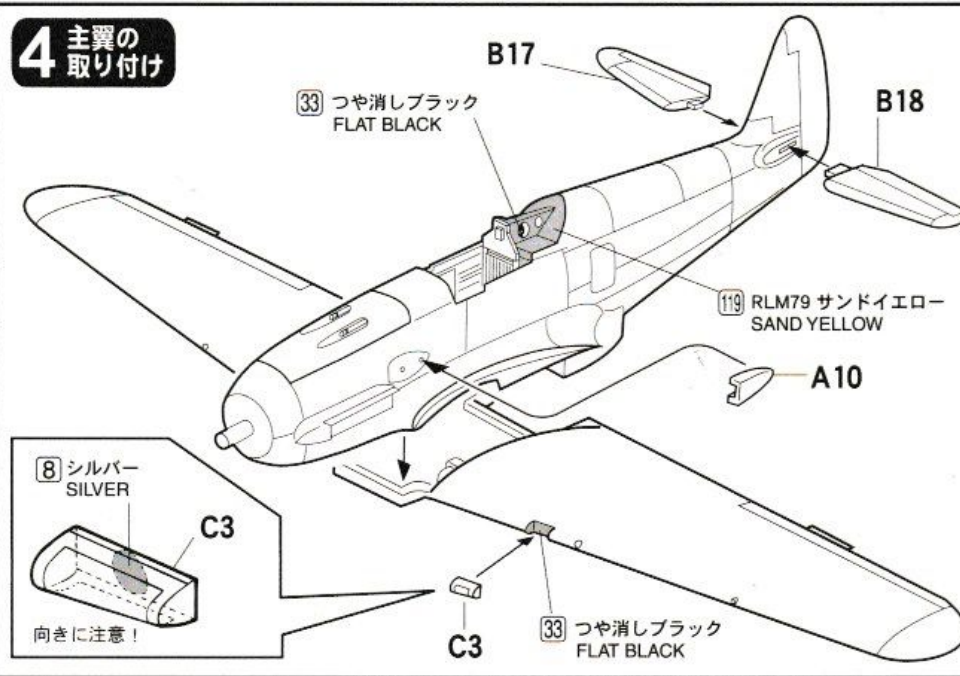
3 主翼の組み立て



落下タンクを取り付ける場合は※部を開口します。(迎撃任務においては装備されなかったようです)
 Make holes at ※ points, if you installation Ext. Tank. (Usually, These were not used at intercept mission.)

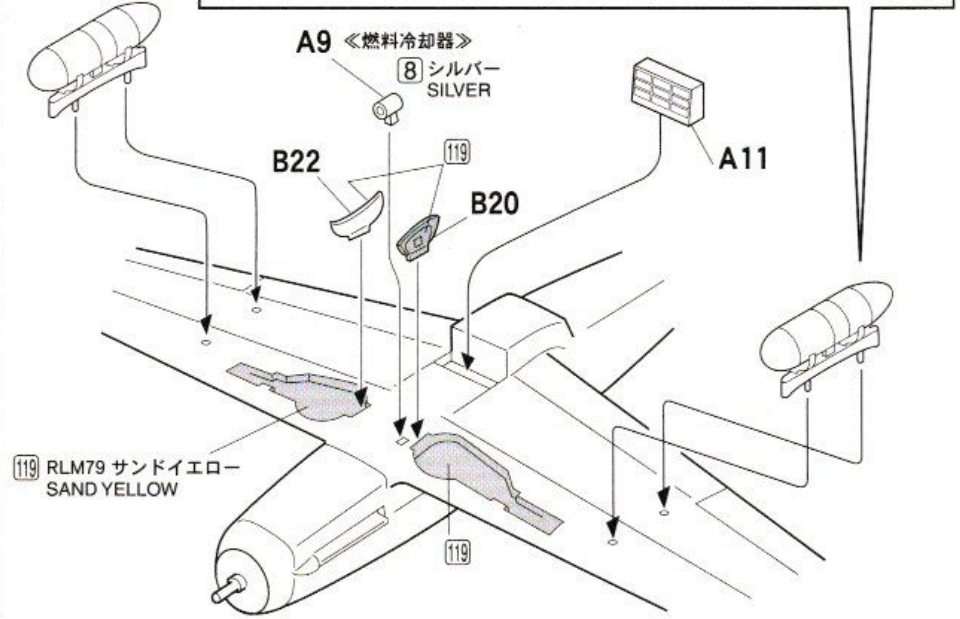
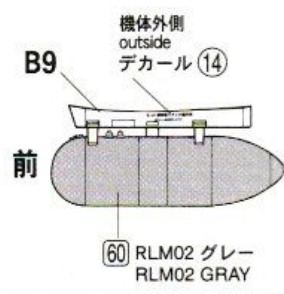
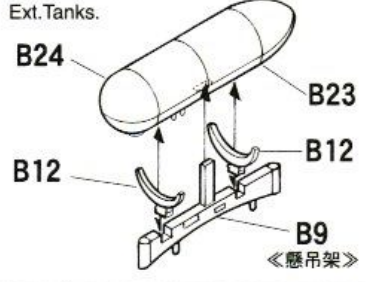
B2・B3の先端、およびB1両端の突起を削り取ります。
 Remove bulges at either ends of B2, B3 and B1.

4 主翼の取り付け



5 懸吊架の取り付け

〈落下タンク〉2つ作ります Make 2 pcs.
 Ext. Tanks.

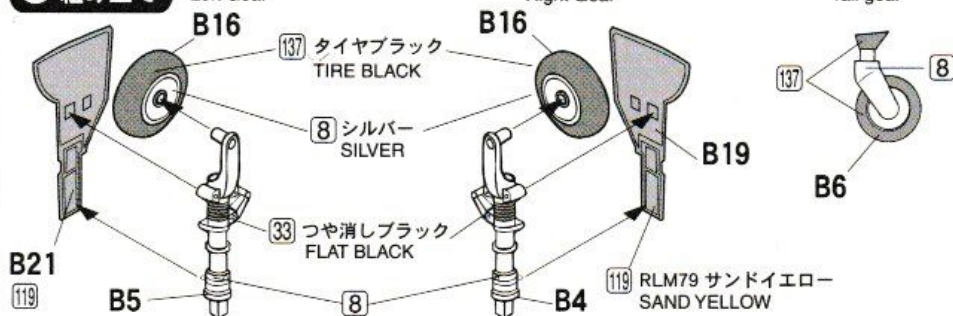


6 脚の組み立て

〈左脚〉
Left Gear

〈右脚〉
Right Gear

〈尾脚の塗装〉
Tail gear



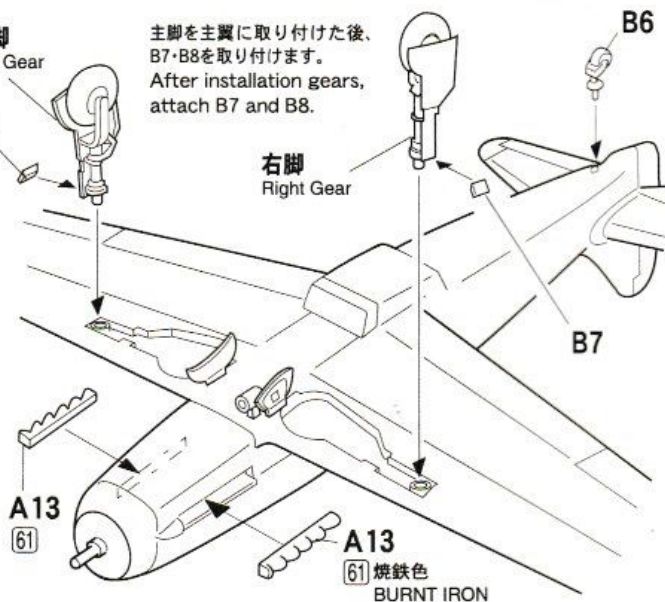
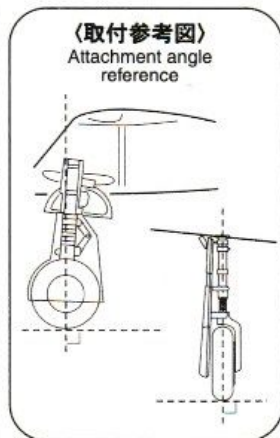
7 脚の取り付け

左脚
Left Gear

主脚を主翼に取り付けた後、
B7・B8を取り付けます。
After installation gears,
attach B7 and B8.

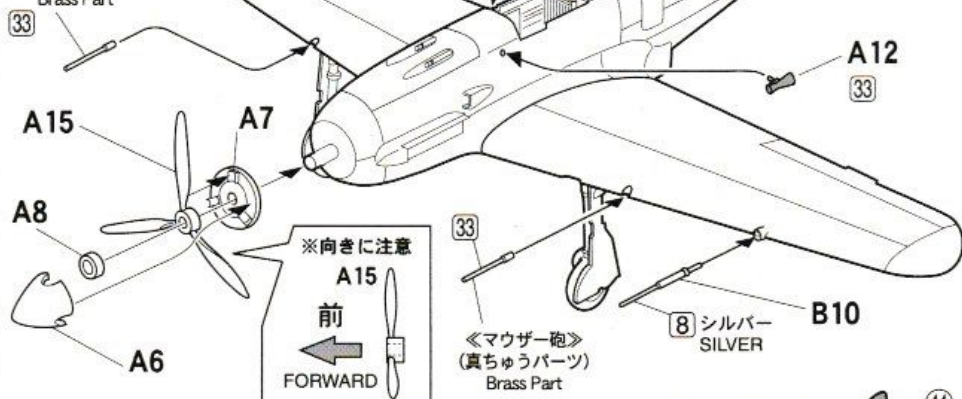
右脚
Right Gear

〈取付参考図〉
Attachment angle
reference



8 プロペラの取り付け

〈マウザー砲〉
(真ちゅうパーツ)
Brass Part



最初にA7(向きに注意)とA15の中心を合わせて接着し、胴体側のシャフトに接着せずに通します。続いてA8をシャフト先端に接着し、最後にA6とA7を接着します。Attach A15 to A7 fast, and put it through the nose shaft of fuselage without cement. Then, Attach A8 to the tip of shaft, and, finally Attach A6 to 17.

真鍮パーツ(マウザー砲)の塗装:

真ちゅうパーツには切削加工時の加工油が残っている場合がありますので、塗装前に中性洗剤等で洗浄してください。

Before painting Brass parts;

Flash cutting oil which remains in brass parts with the neutral detergent for kitchens etc.

不要部品 Not For Use : B11

〈プロペラの塗装〉



塗装とマーキング

飛行第244戦隊の三式戦は無塗装アルクラッド地肌にマーキングを施した機体や、上面や側面等に濃緑色の斑点やシマ模様の迷彩塗装を施したものの、上側面を濃緑色ベタ塗りとした機体など様々な塗装例がみられます。「各機のマーキングと塗装」はそれぞれの塗装例ごとに図示してありますが、細部の塗装は組立図中の説明も参考にしてください。

※○数字はデカール番号、□数字はGS1クレオス・Mr.カラーの色番号を表しています。またデカール⑮⑯は使用しません。

デカールの貼り方

- 一度に全てのデカールを切り出さず、工程ごとに必要なマークのみをカッターやはさみで切り抜きます。
- 切り出したマークを10秒から20秒程度ぬるま湯に浸してから引き上げます。(熱湯でのヤケドに注意！)
- モデルの貼りたい箇所にマークを台紙ごと近づけ、台紙をずらしながらマークをモデルに移動します。
- ぬらした指などで正しい位置にずらしします。
- 位置が決まったら、柔らかい布や綿棒などを使い、中心部から気泡と水分を押し出すようにマークを固定します。(力を入れすぎるとマーク全体が移動したり、破れたりするので注意)
- 曲面や表面の彫刻にマークを密着させたいときは、GS1クレオス・マークソフターなどを使用し、綿棒などで慎重に作業してください。貼ったマークは乾いて固着するまで触れないようにします。(マークソフターの使用方法は製品の取扱説明をご覧ください)

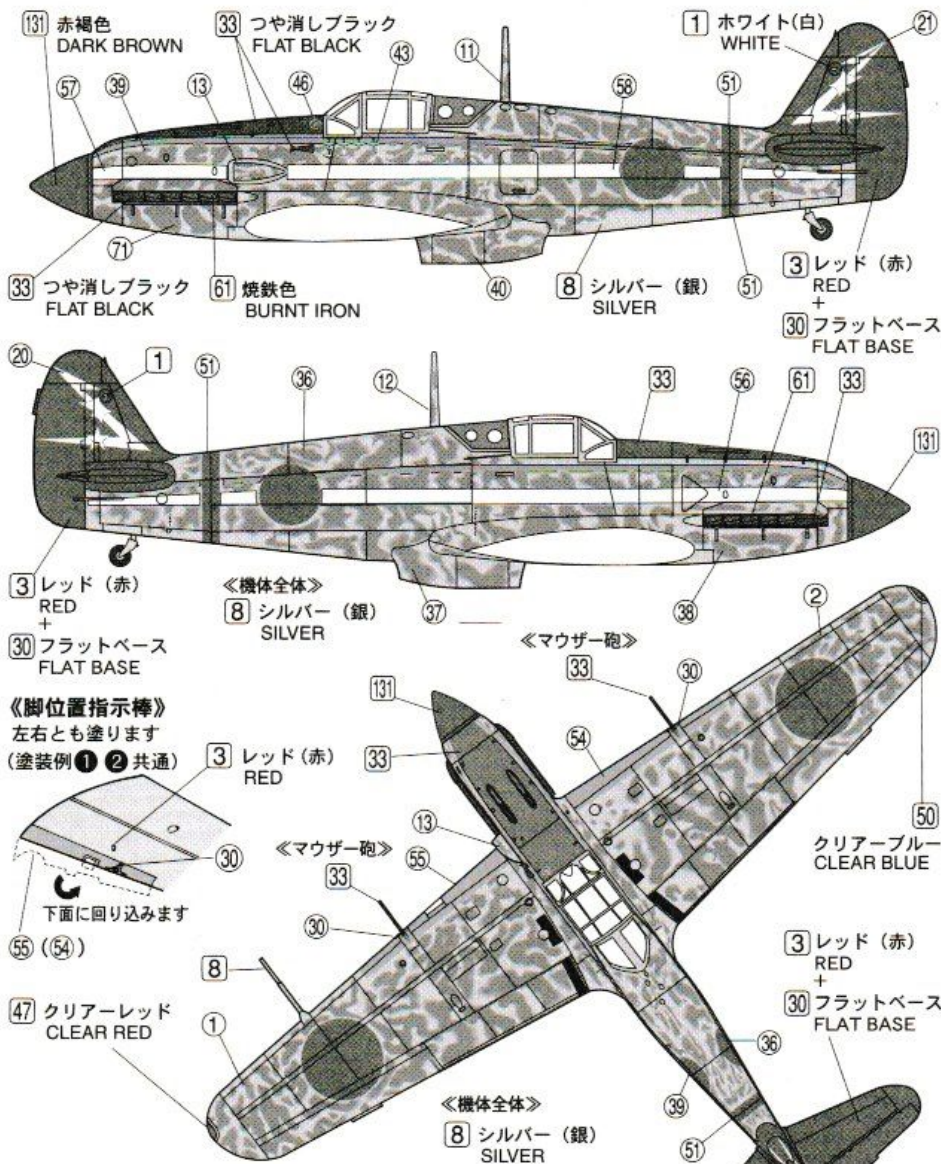
各機の塗装とマーキング Painting & Marking

① 飛行第244戦隊 戦隊長・小林照彦大尉機 昭和20年1月 調布飛行場

No.3295 244th Air Regiment, Flown by Capt. Teruhiko Kobayashi, Chofu AB 1945

3295号機は小林戦隊長が乗機とした2機の中の1機です。昭和20年1月27日の迎撃戦で戦闘中にB-29と衝突。敵機と共に墜落しましたが小林戦隊長は落下傘降下により生還しました。

小林戦隊長は陸軍士官学校53期。砲兵少尉として任官したがその翌年に航空に転科し軽爆撃機隊に配属されます。昭和19年末に戦闘機操縦転換教育を受け大尉に進級。教官任務の後飛行244戦隊長に着任しました。終戦時の階級は少佐。敗戦による部隊解散後も残務処理や占領軍部隊への引継任務などで八日市飛行場に留まり、調布の自宅に戻ったのは11月19日のことでした。

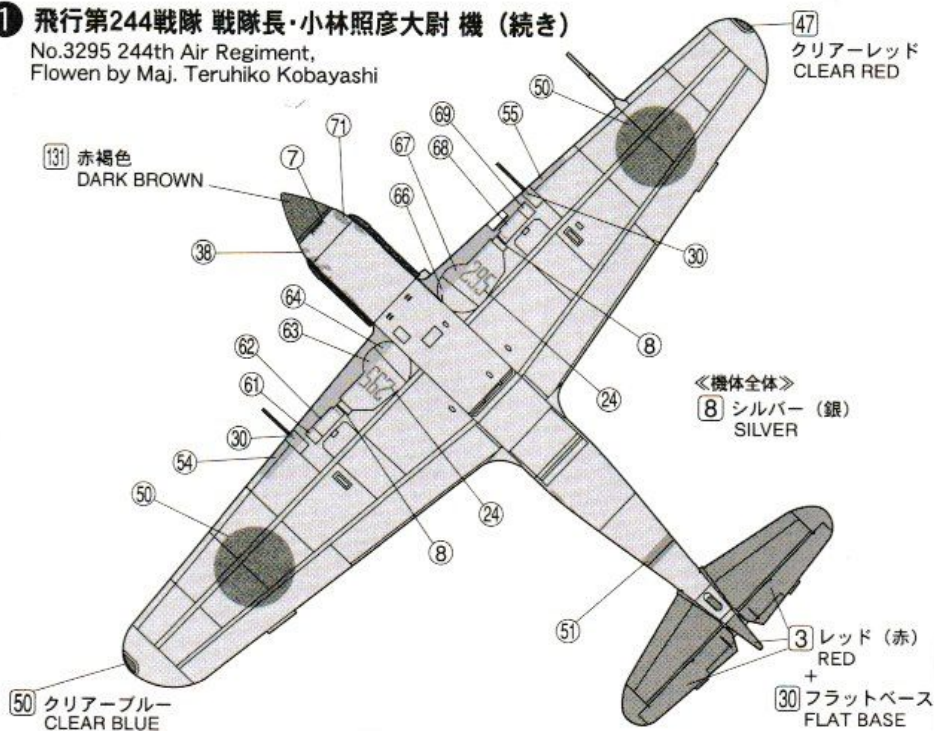


○迷彩塗装デカールについて

機体を塗装した後マークを貼り、図を参考に慎重に位置決めをしながら、綿棒などで水分を押し出すようにして機体になじませていきます。一つ一つ確実に貼った後で、次の作業に進んでください。

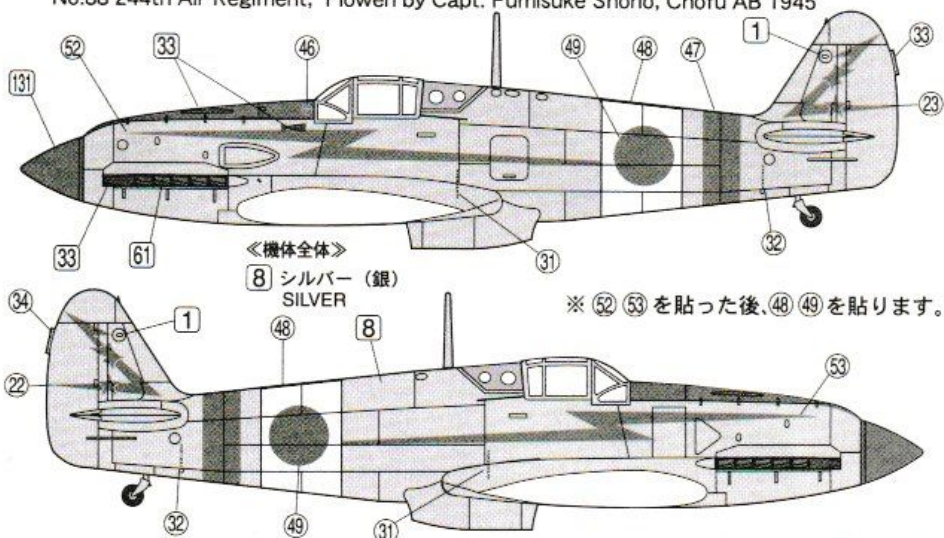
① 飛行第244戦隊 戦隊長・小林照彦大尉機 (続き)

No.3295 244th Air Regiment,
Flown by Maj. Teruhiko Kobayashi



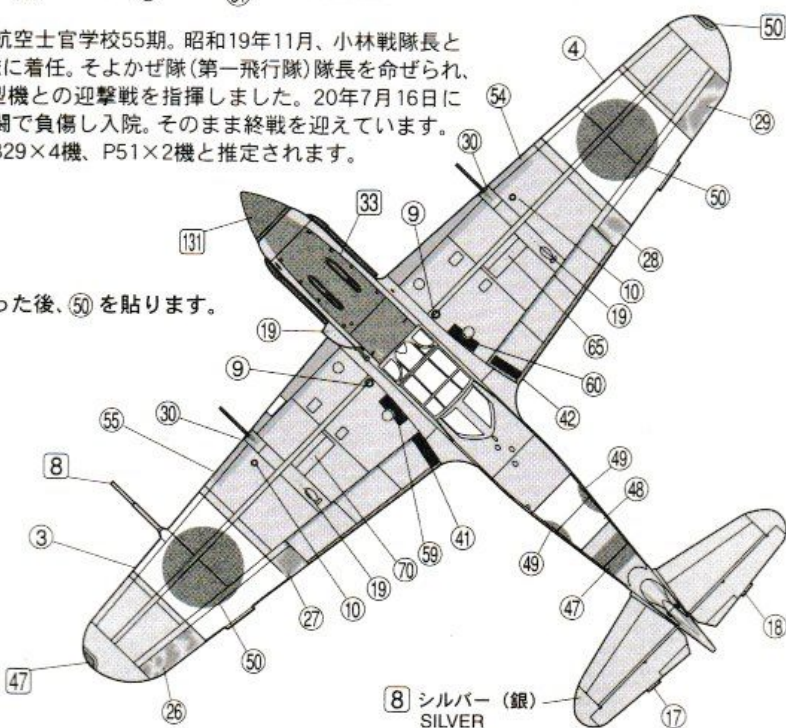
② 飛行第244戦隊 第1飛行隊「そよかぜ隊」隊長 生野文介大尉機 昭和20年2月 調布飛行場

No.88 244th Air Regiment, Flown by Capt. Fumisuke Shono, Chofu AB 1945



生野大尉は航空士官学校55期。昭和19年11月、小林戦隊長と同日に244戦隊に着任。そよかぜ隊(第一飛行隊)隊長を命ぜられ、以後B29や小型機との迎撃戦を指揮しました。20年7月16日に小型機との戦闘で負傷し入院。そのまま終戦を迎えています。撃墜記録はB29×4機、P51×2機と推定されます。

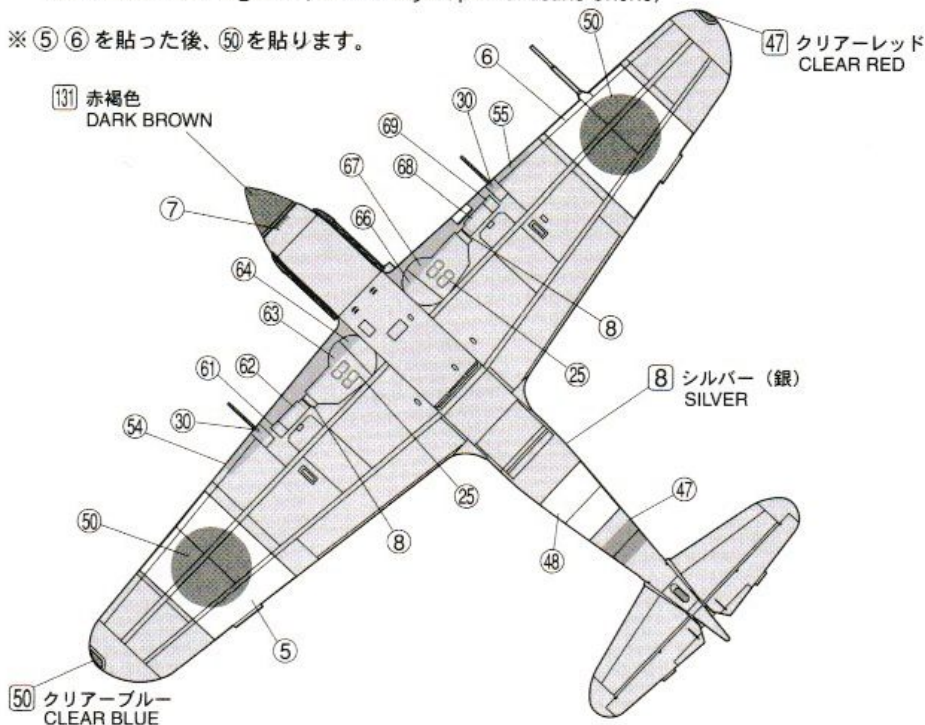
※ ③ ④ を貼った後、⑤ を貼ります。



② 飛行第244戦隊 第1飛行隊「そよかぜ隊」隊長 生野文介大尉 機(続き)

No.88 244th Air Regiment, Flown by Capt. Fumisuke Shono,

※ ⑤ ⑥ を貼った後、⑤⑩ を貼ります。



● カラーナンバー対応表

※このカラーナンバー対応表はあくまで近似色での表示です。

GSIXクレオス・Mr.カラー (図中の□数字)	GSIXクレオス・水性ホビーカラー	タミヤカラー
C-1 ホワイト (白)	H-1 ホワイト (白)	X-2 ホワイト
C-3 レッド (赤)	H-3 レッド (赤)	X-7 レッド
C-4 イエロー (黄)	H-4 イエロー (黄)	X-8 レモンイエロー
C-8 シルバー (銀)	H-8 シルバー (銀)	X-11 クロームシルバー
C-30 フラットベース	H-40 つや消し剤	X-21 フラットベース
C-33 つや消しブラック	H-12 つや消しブラック	XF-1 フラットブラック
C-41 レッドブラウン	H-47 レッドブラウン	XF-64 レッドブラウン
C-47 クリアーレッド	H-90 クリアーレッド	X-27 クリアーレッド
C-50 クリアーブルー	H-93 クリアーブルー	X-23 クリアーブルー
C-55 カーキ	H-81 カーキ	XF-49 カーキ
C-60 RLM02グレー	H-70 RLMグレー02	XF-2 + XF-49
C-61 焼鉄色	H-76 焼鉄色	XF-7 + XF-56
C-119 RLM79サンドイエロー	H-66 RLMサンディブラウン79	XF-59 + XF-64
C-131 赤褐色	H-84 マホガニー	XF-10 フラットブラウン
C-137 タイヤブラック	H-77 タイヤブラック	XF-1 + XF-24

部品を破損または紛失の際は…

紛失・破損などにより部品をご希望とされる方には、ランナー(枠)単位で有償にてお分けしています。下覧記載の代金(消費税・送料込み)支払方法を明示の上、当社アフターサービス係(宛先は右下)までお申込みください。いずれのパーツも本カード1枚につき1キット分に限らせていただきます。

部品請求カード

ITEM No. FP26

飛燕・飛行第244戦隊

A	¥700
B	¥800
C	¥300

デカール	¥700
マウザー砲(2本)	¥800
説明図	¥500

For the Customers in Japan only

ご注文とお支払い方法

●「定額為替」「現金書留」「銀行振込」にて送金の場合
上記部品請求カードの必要部品を○で囲み、お名前・御住所・電話番号を書き添えたメモを同封いただき、弊社までお送りください。

銀行振込にてお支払いの際は、ご注文時にお振込人名も併せてお知らせください。「郵便振替」の際は払い込み用紙の通信欄に「製品番号、品名、部品枠(ランナー)名、数量」をご記入ください。いずれの場合もご入金を確認次第発送いたします。送料ならびに為替手数料、振込手数料等は別途ご負担ください。切手での送金はお受けできません。

■郵便振替口座:
名古屋 00840-2-21475
加入者名:
(有)ファインモールド

■銀行振込:
三菱東京UFJ銀行 豊橋支店
普通 5369261
(有)ファインモールド

●代金引換(到着時にお支払い)にてご注文の場合

部品請求カード記載のパーツ代金に代引き手数料300円を加算した金額がお支払いの総額となります。ご希望の製品番号と製品名・部品番号とお届け先をファックスまたはEメールなどでお知らせください。ご注文時にいただいたお客様の個人情報は商品発送および発送記録確認以外の目的には用いません。



有限会社ファインモールド

〒441-3301 愛知県豊橋市老津町場53-2
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811

インターネットホームページ

<http://www.finemolds.co.jp>

©2003 FineMolds MADE IN JAPAN